

第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会を終えて

第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会は、「チームで取り組む！ 一生すこやかに血管を保つために」を統一テーマとして、2019 年 7 月 11 日～12 日に国立京都国際会館において開催されました（写真 1）。

特別講演は成宮周先生（京都大学名誉教授）に「プロスタグランジンと慢性炎症」に関して、上島弘嗣先生（滋賀医科大学名誉教授）に「疫学観察研究・臨床試験に関するこ

れまでの歩みと展望」についてお話しいただきました。The 4th Shimamoto Takio Memorial Lecture は Ernst J Schaefer 教授に、また海外招聘講演では Brian Tomlinson 教授、Joachim Herz 教授、Paul Ridker 教授、Henry N. Ginsberg 教授、Sergio Fazio 教授に未発表のデータも数多く含めた最新の話題をご紹介頂きました。



1 会長講演



2 大島賞受賞の及川眞一先生と佐藤靖史前理事長



3 学会賞受賞の山下静也先生と木下誠副理事長

また本学会からの表彰としては、第 36 回大島賞は及川眞一先生が（写真 2）、第 20 回日本動脈硬化学会賞は山下静也先生が（写真 3）、また第 14 回五島雄一郎賞は的場哲哉先生が（写真 4）受賞されました。

学術シンポジウムでは脂質代謝、血管生物学、メタボリックシンドローム、脳卒中、糖尿病に加え、炎症、SAS、CKD、腸内細菌、認知症、小児期からのリスク管理、加齢、フレイル、サルコペニアなど最新のトピックに関する発表と討論が行われました。学会企画についても、日本消化器病学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本産業衛生学会、日本血管生物医学会、日本腫瘍循環器病学会などとの合同企画を設けました。一般公募演題からなるポスターセッションでは、すぐれた演題を



4 五島賞受賞の的場哲哉先生と
荒井秀典副理事長



5 ポスター会場風景

選択し、会場内に設けたブース内でミニ口演として発表していただきました（写真 5）。この試みは、若手に発表の機会を提供するとともに、将来の研究育成につながると信じています。

更に、テーマに掲げた「チームで取り組む」動脈硬化予防を目指して、今回の学術集会でも薬剤師、管理栄養士、保健師、看護師、臨床検査技師、理学療法士等を対象にしたメディカルスタッフセッションもできる限り多数の分野から企画しましたが、予想を上回る参加者で入場が難しいほどの盛況の中、非常に具体的で実際の活動に密着した討論が行われました。また第 22 回診断技術向上セミナーならびに高血圧・循環器病予防療養指導士セミナーも多数の方々に参加していただき、最新の情報と実技の実際を学んでいただくよい機会になったと思っております。

お陰様で会期中 1415 名もの方々にご参加いただきましたが、特に印象的だったのは、先にも述べたようにメディカルスタッフの方々が多数参加されたことですが、チームでとりくむ動脈硬化予防という今回のテーマの示す目標に向かって進んでゆくという日本動脈硬化学会の将来に向けての方向性が示せたのではないかと考えております。

一般市民の方々と最新の情報提供を目的にした市民公開講座も血圧管理の重要性、脂質と生活習慣、肥満・糖尿病に関して有意義なご講演をいただきました。

以上、多くの先生方のご協力で学術集会を盛況のもとおえることができました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会会長
横出正之
(京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター 副センター長)